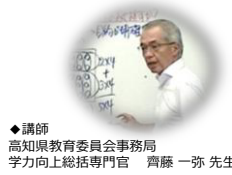


「高知の授業づくり改革プランにおける『学力向上対策推進事業』授業づくり講座」では、新学習指導要領の趣旨理解から、算数・数学科を軸に授業づくりのプロセスを学び、組織的な授業改善を図ることを目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会及び事後研究会をセットにして実施します。今回は、春野西小学校を会場とする第3回【教材研究会】（9月6日実施）における学びの様子を紹介します。

講師による
全体指導

これからの授業づくりでは、単元を通していかに数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育むかが求められる。そもそも、かけ算(1)と(2)はなぜ分かれているのか？分かれているのであれば、それらの単元をつないでいかなければならない。
 本提案は、かけ算(2)で重要視されているかけ算の性質を活用して九九を構成することへ滑らかに移るために、計算の性質を使うように見方を広げていきたいというねらいがあった。自ら九九を創るといふかけ算(2)の主たる目的に迫るうえで提案には価値がある。それを実現するための時間になるよう追究していきたい。



提案授業 第2学年「かけ算」

【授業者】濱田 真由美 教諭（高知市立春野西小学校）

課題の所在

大切にしたい授業
 ▶子どもが新しい問題に出合った際に、何に目を付け(見方)、どのように問題解決していけばよいのか(考え方)を既習事項を活用して、新しいことを創り出すことができるような授業づくりをする
 ↓
 自ら学びに向かう子ども
(学校教育目標 めざす子ども像「進んで学び考える子」に迫る)

次時 かけ算(2)「6の段をくふうしてつろう」で九九の構成の見方が広がるイメージ例
 6×1=6 かける数は1増え、6ずつ増える
 6×2=12
 6×3=18
 6×4=24
 6×5=30
 6×6=36
 6×7=42
 6×8=48
 6×9=54
 2×6=12 12+24=36
 4×6=24
 分配の法則の考えを活かした考え方も自ら使える
 同数累加と異なる九九の構成についてふれることで、数の見方を広げる

提案趣旨説明

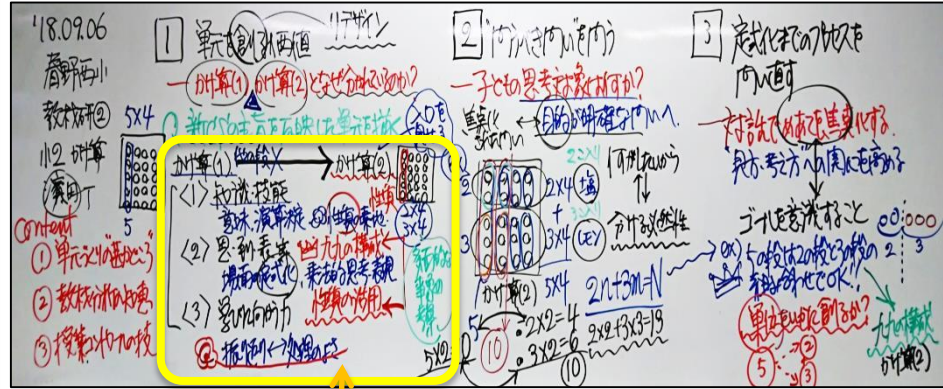
【提案授業について】
 本提案では、「かけ算(1)」と「かけ算(2)」を数学的な見方・考え方となくことを意識して単元を描く。本時は、「かけ算(1)」と「かけ算(2)」のつながりとして、一つ分といくつ分という数の表し方の仕組みに着目し、乗法の意味に基づいて、九九の構成について統合的・発展的に考えることをねらいとする。ここで働かせた数学的な見方・考え方は、6の段以降を学習する際の分配法則の考え方も生かした九九の構成や、乗法九九を総合的に活用して問題を解決する複合アレイ図の学習の際につなげていきたい。
 研究主任 榎谷 教諭

模擬授業

児童が数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的に学ぶことで見方・考え方の高まりを実感できるように、「これまでの学び(既習)をいかに活用するか」、「他の段でも適用できるか試してみよう」などと学び方自体を学ぶとともに、数の構成や数の並びからの発見的な気づきを価値付けていきたい。
 【本時で育てたい資質・能力】
 同じ教のまとまりに着目し、図と式を関連付けて、数の表し方や計算の仕方などを考察する力
 【まとめ・振り返り】
 かけ算(2) 6の段以降の「九九をつろう」の単元において、自ら既習を生かして九九を構成できるように、同数累加と異なる九九の構成についてふれることで、数の見方を広げる。
 【期待する子供の具体的な姿】
 ・ 2の段の答えを合わすと、4の段の答えと同じになったよ。
 ・ 一つの九九は他の九九に分けて考えることができたよ。
 ・ 習った九九に分けても答えは同じだったよ。
 ・ 他の段の九九にもなった九九がかくれているかな。やってみよう。

グループ協議
 課題の整理

提案の主張を踏まえて、授業のゴールやそこに迫るためのプロセスについて参観者とともに協議を行いました。
 子供が問いをもつまでの導入部分の手立ての工夫や、子供が何をどのように思考していくとねらいに迫ることができるのか等多様な意見が出されました。



1 単元づくりの勘どころ

単元をつないでいくうえで抑えるべきことは、新学習指導要領の趣旨を反映した単元を描くこと。「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導のポイントを確認する。
 かけ算(1)…意味、演算決定、性質の素地(かけ算のきまり)、場面の定式化(場面を算数の問題にするまでのプロセス)、乗法的思考・表現、振り返りでの処理のよさ
 かけ算(2)…性質、九九の構成、性質の活用、振り返りでの処理のよさ

2 教材研究の知恵 ～問うべき問いを問う～

ポイントは、子供にとって目的が明確な問いをつくること。そうすることで、子供の思考対象が明確になる。(=焦点化された問い) ※ 例えば、既習の九九に分ける必然性のある場面設定となるよう工夫する。

3 授業コントロールの技 ～問いに至るまでのプロセスを重視する～

子供との対話でいかにめあての設定までを築いていくか、また、そこに至る過程のなかで、子供が数学的な見方・考え方に興味を高めることができるようにすることがポイントである。つまり、何に着目すれば今日の問題が解けるのか、思考の対象として考えていくべきことは何かをクローズアップさせていくことを丁寧にしたい。
 ※ 例えば、「5の段は2の段と3の段の組合せでもできる！」というゴールを描くとすると、既習の九九に分けるという迫り方以外にも、単位に着目して単位を創るといふ見方・考え方で授業を描くこともできる。多様な迫り方があるが、子供が自然と単位に着目できる場面の設定から、ゴールに迫ることを大切にしたい。

👉 **リデザインのポイント!**

【参会者の感想】

- ・ 子供がどう見て、思考するかという視点は、中学校教員としても授業でもっと磨かないといけないと考えさせられた。
- ・ かけ算(2)に何を広げていくべきかを考えることができ、大変有意義な時間だった。
- ・ 教える側としては、かけ算(1)とかけ算(2)の違いを意識していたが、子供の意識の流れは決してスムーズなものではないということに気付くことができた。
- ・ 必然性のある問いとめあての焦点化を改めて意識し直そうと思った。ゴールの姿をもう少しはっきりと示していきたい。
- ・ かけ算(1)とかけ算(2)の二つの単元をいかにつなぐかという視点での提案で、自分は単元をどうつなぐかを考えることが十分できていなかったと反省した。新学習指導要領の趣旨を反映した単元を描くという考え方で、もう一度これから取り組むかけ算の単元を考え直していきたい。
- ・ 問いを考えることがとても大切であると改めて感じた。子供が自ら考えることができる問いを考えていきたい。そのためには、ゴールイメージをしっかりともち「言葉」にこだわりたい。単元についても指導書通り行っているので、単元構成から自分自身の授業を振り返りたい。

今後の予定

- 10月18日(木) 潮江南小学校【教材研究会】第5学年「分数のかけ算とわり算」★ 15:00～17:00 模擬授業・研究協議・齊藤先生による指導
- 10月19日(金) 春野西小学校【授業研究会】第2学年「かけ算」★ 14:15～17:00 公開授業・研究協議・齊藤先生による指導
- 10月25日(木) 高須小学校【授業研究会】第1学年「かたちあそび」★ 13:30～17:00 公開授業・研究協議・齊藤先生による指導

**今が学びのチャンス!!
 授業づくり講座で
 共に学ぼう!**



「授業づくり講座」の日程及び他のレポートは、HPをご参照ください。QRコード⇒